

夢 塾 だ よ り

～ 保護者からの手紙 ～ (第21号)

平成31年3月22日



県立高校の合格発表は、各高校で午前9時に合格者の受験番号が貼り出されます。今年は4名の塾生が受験しました。那覇国際高校に受験したH君は内申点も実力も十分な生徒でしたが、私の元に合格の知らせがありません。午後3時を過ぎてありません。しびれを切らして私の方からメールで「試験どうだった？」と送ると「受かりま

した」とあっさり返信がありひとまずほっと。残るは3人。試験の結果はすぐ知らせようとあれほど言ったのに全くの連絡なし。落ちた生徒に気を遣って自分の合格が話しづらいのかなと心配していたら、4時になって突然2人で現れました。

「合格しました。直接話したかったんです」・・・『親の心子知らず』とはよく言ったものです。さらに話題はまだ連絡のないJ君に及びます。「コザはいっぱい落ちた人いるから大丈夫かな」と。そこへ真っ青な顔をして無言で現れたJ君。一瞬言葉を失った私と彼女たち。すると彼の後方で、大きな段ボール箱を抱えたお父さんのにこやかな顔。そしてお母さんの笑みを見て合格が分かりました。段ボール箱には、炭酸水24本が入っていました。また、那覇国際高校に合格したH君はご両親同伴で塾にお礼の挨拶に来てくれました。「楽しい高校生活を送ってね」と激励しました。今年もドラマ仕立てのような合格発表の一日でした。

先日保護者から嬉しい直筆のお手紙をいただきました。

『健勇先生、娘がいつもお世話になっております。期末考査の点数が上がり、親子共に喜んでおります。中間考査の点数が悪すぎて、どうしたものかと悩んでおりました。健勇先生に優しく丁寧に教えていただき、娘は数学嫌いがどんどん減っています。まだまだ頑張らなければなりませんこれから、ご指導よろしく願いいたします。』 また、別のお母さんからこんなショートメールもいただきました。『先生ありがとうございます♪ 娘が95点なんて夢のような話です。これからどうぞよろしく願いいたします』

私は人と関わるのが好きな性分なんでしょうね。その人の人生のほんの一時でも一緒に悩み一緒に考える。個人指導の塾が必要とされていることを実感する日々です。どんなに教育機器が進んでもやるのは人間です。感じるのは人間です。これからもこのスタイルを続けていきたいと思えます。